

薬剤科

中多 泉

薬剤科では、当センターの運営方針に基づき、10 項目（病棟薬剤業務実施加算の推進、薬剤管理指導業務の充実、医療安全の確保・診療の質の向上、がん化学療法における安全性および質の向上、チーム医療への積極的関与、専門薬剤師の育成・研修受入体制の推進、薬学生長期実務実習受入体制の充実、材料費の縮減、治験・臨床研究の推進および教育、継続的な組織運営のための人材育成）を基軸として各種業務を実践している。また、実践業務においては医療安全の確保と経済性効率を勘案しつつ、医師、看護師および多職種の方々の協力を得ながら主体的に薬物療法に参加することで、医薬品の適正使用推進に向けて日々努力している。

1. 病棟薬剤業務実施加算・薬剤管理指導業務

平成 24 年度診療報酬改定では、薬剤師が病棟で薬物療法の有効性、安全性の向上に資する業務を実施することが評価され、入院基本料の加算として病棟薬剤業務実施加算が新設された。その主な業務は、(1) 入院患者に対する最適な薬物療法の実施による有効性・安全性の向上 (2) 疾病の治癒・改善、精神的安定を含めた患者の QOL の向上 (3) 医薬品の適正使用の推進による治療効果の向上と副作用の防止による患者利益への貢献 (4) 病棟における薬剤（注射剤、内服剤等）に関するインシデント・アクシデントの減少 (5) 薬剤師の専門性を活かしたチーム医療の推進であり、薬剤科ではこの業務に平成 24 年 4 月よりいち早く取り組んでいる。(2,681 件/月)

病棟に常駐する薬剤師は、回診・カンファレンスにおいて各種情報（検査データ、投与中止、重複処方、投与量の変更確認、開始時間の確認）を収集し、注射薬の溶解時の安定性や配合変化をチェックした上で、病棟内の移動式クリーンベンチで一般注射薬の無菌調製を実施している。（4,773 本/月）

また、全入院患者の持参薬情報を電子カルテに入力し医師へ情報提供を行っている。

薬剤管理指導業務は、救命救急センターを含めた全病棟を対象に行っており、各主任をヘッドとしたチームに副主任を配置することで一層の業務効率化を図っている。(1,063 件/月)

2. 抗癌剤・IVH 製剤の無菌調製

良質な医薬品の供給を目的に、薬剤科注射薬室の無菌室において一元的に、クリーンベンチ・安全キャビネットを用いた無菌混合調製を実施している。

抗癌剤に関しては平成 14 年 7 月に外来化学療法室が開設され、全診療科の外来患者を対象に月間 714 本の無菌調製を行っている。また入院患者に対しては、17 年度より取り組みを始めており、月間 1,669 本の調製を行っている。また、がん薬物療法委員会

において承認されたプロトコルを対象に、薬剤科でプロトコルチェックを行い、安全管理の徹底を図っている。

3. 医薬品情報管理（収集・整理・評価・提供）

医薬品は有効性と安全性を確保しつつ適正に使用されなければならない。そのためには医療情報は、正確かつ適正に管理する必要がある。薬剤科では医薬品情報の適正な管理と供給を行うために専任スタッフを配置している。また、厚生労働省への医薬品・医療機器副作用報告も積極的に行っている。（11件／年）

4. 治験・臨床研究業務

治験実施にあたっては、GCPに基づく国際的な評価に値するデータ作成が求められている。薬剤科では、治験・臨床研究の支援業務を行う専任薬剤師CRC（治験主任薬剤師2名、薬剤師1名）を配置している。

5. HIV 感染症患者への服薬支援の強化

HIV 感染症患者に対しては、担当薬剤師3名（専従2名、併任1名）を配置することで円滑な服薬支援体制を構築している。また、感染症科外来に隣接した「お薬の相談室」を設置し、薬剤師が常駐することで患者動線の改善、医師・看護師との緊密な連携が強化でき、より多くの長期患者に対してのフォローが実践できている。（221件／月）。

6. 専門薬剤師の育成・研修受入体制の推進

日本病院薬剤会 HIV 感染症薬物療法認定薬剤師養成研修施設、日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設、日本病院薬剤師会小児薬物療法認定薬剤師研修施設の認定を受けている。また、薬学部6年制に伴う薬学生長期実務実習生は32名を受け入れた。

7. 臨床研究業績

論文投稿、学会発表等は以下の通りである。
今年度は、国内学会誌に3論文、国際学会に1演題を報告した。

【2013年度研究発表業績】

A-3

中蔵伊知郎、木原理絵、阿部正樹、河合実、関本裕美、廣畑和弘、山内一恭、小森勝也：
腎機能別に観察したリポソーマルアムホテリシン B による低カリウム血症。日本腎臓病薬物療法学会誌 2013 年 2 巻 1 号 p11-16

中蔵伊知郎、藤尾弥希、阿部正樹、河合実、山田雄久、廣畑和弘、中多泉：腎機能正常患者においてダプトマイシンの投与により血中クレアチンホスホキナーゼが早期に上

昇した 1 症例。医療薬学 40(1) 62-66(2014)

加藤あい、増田慎三、榎原克也、上野裕之、廣畑和弘、山内一恭、八十島宏行、水谷麻紀子、山村順、小森勝也：ドセタキセルによる浮腫予防に対するステロイド前日投与の効果についての後方視的研究。癌と化学療法 第 41 巻 第 2 号 211-214

A-4

笹山洋子：CRC によるがん領域の治験支援。月刊薬事 (Vol55 No.5) :782-786,2013

吉野宗宏：抗 HIV 薬モニタリング (TDM)。化学療法の領域 29(11) : 99-107,2013.

A-6

榎原克也：がん薬物療法に発展と変革をもたらす薬剤師の可能性。薬事日報 2014/1/20 P.8

B-2

KatsuyaMakihara、SayakaAzuma、HirokoHasegawa、MasatakaIkeda、Kazumasa Fujitani、Hideyuki Mishima、Toshimasa Tsujinaka : Total bilirubin as a predictive marker for irinotecan-induced toxicity in patients with gastrointestinal cancer。ASCO-GI 2014、サンフランシスコ、2014 年 1 月

B-3

吉野宗宏：HIV 診療におけるチーム医療（薬剤師外来常駐）、第 63 回日本病院学会シンポジウム、2013 年 6 月

吉野宗宏：免疫機能低下時の感染症管理。第 23 回日本医療薬学会シンポジウム、2013 年 9 月

中蔵伊知郎：薬物療法専門薬剤師によるチーム医療の推進。一般社団法人 日本医療薬学会第 49 回公開シンポジウム、名古屋、2013 年 10 月

吉野宗宏：毎日の服薬～服薬アドヒアランスをいかに保っているか？ -抗 HIV 薬の服薬に関するアンケート調査。第 27 回日本エイズ学会学術集会ランチョンセミナー、熊本、2013 年 11 月

吉野宗宏：セルフ・マネジメント 取り組むなら今でしょ！。第 27 回日本エイズ学会学術集会、2013 年 11 月

B-4

中蔵伊知郎、阿部正樹、木原理絵、河合実、関本裕美、廣畑和弘、山内一恭、小森一也：
メタロ-β-ラクタマーゼ（MBL）産生菌に対するアミカシン硫酸塩の臨床効果に関する
後方視的調査。第 87 回日本感染症学会学術講演会・第 61 回日本化学療法学会総会 合
同学会、横浜、2013 年 6 月

田中景子、槇原克也、宮城和代、梨あゆみ、里見絵理子、上田純子、廣畑和弘、山内一
恭、廣常秀人、小森勝也：がん疼痛患者におけるプレガバリン腎機能を考慮した投与量
と服薬中止との関連について。日本緩和医療学会、横浜、2013 年 6 月

加藤あい、槇原克也、廣畑和弘、山内一恭、八十島宏行、水谷麻紀子、山村順、増田
慎三、小森勝也：エリブリンメシル酸塩の使用実態と治療継続に関わる背景因子の探
索。第 21 回日本乳癌学会、浜松、2013 年 6 月

KatsuyaMakihara、SayakaAzuma、KazuhiroHirohata、KazutakaYamauchi、Katsuya
Komori：Examination of total bilirubin as a predictive marker for irinotecan-induced toxicity。
日本臨床腫瘍学会、仙台、2013 年 8 月

阿部正樹、森田知子、中蔵伊知郎、服部雄司、河合実、山田雄久、廣畑和弘、中多泉：
ダプトマイシン投与 4 日目にクレアチニンホスホキナーゼの顕著な上昇を確認し投与
中止となった 1 例。第 23 回日本医療薬学会年会、仙台、2013 年 9 月

中蔵伊知郎、河合実、米本仁史、小川吉彦、上平朝子、山田雄久、廣畑和弘、中多泉：
カルバペネム系抗菌薬の適正使用へ向けての取り組み～感染対策チームで行うカルバ
ペネム系抗菌薬使用全症例モニタリングと介入～。第 23 回日本医療薬学会年会、仙台、
2013 年 9 月

梅原玲緒奈、藤田晃介、槇原克也、川端一功、山田雄久、廣畑和弘、中多泉：プロトン
ポンプ阻害剤の併用が高用量メトトレキサートの血中濃度に及ぼす影響。第 23 回日本
医療薬学会年会、仙台、2013 年 9 月

矢倉裕輝、櫛田宏幸、服部雄司、河合実、吉野宗宏、山田雄久、廣畑和弘、中多泉：抗
HIV 薬の一化調剤機器の分包時間に関する比較検討。第 23 回日本医療薬学会年会、
仙台、2013 年 9 月

庄野裕志、槇原克也、山田雄久、廣畑和弘、中多泉：胃癌化学療法におけるシスプラチ

ンの設定用量についての検討。第 23 回日本医療薬学会年会、仙台、2013 年 9 月

吉野宗宏：抗 HIV 薬の院外処方発行における問題点とその取り組み。第 23 回日本医療薬学会、2013 年 9 月

笹山洋子、森下典子、土井敏行、上野智子、服部理恵、山下美由貴、是恒之宏、楠岡英雄：治験・臨床研究推進のための治験関連文書の電子化にむけての取り組み。第 13 回 CRC と臨床試験のあり方を考える会議、幕張、2013 年 9 月

中蔵伊知郎、阿部正樹、河合実、山田雄久、廣畑和弘、中多泉：腎機能正常患者において daptomycin の投与により血中クレアチニンホスホキナーゼが早朝に上昇した 1 症例。日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会、広島、2013 年 10 月

木原絵里、中蔵伊知郎、河合実、山田雄久、廣畑和弘、中多泉：CKD 患者に対するアロプリノールからフェブキソスタット切り替え症例での有効性および安全性に関する検討。日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会、広島、2013 年 10 月

東さやか、槇原克也、山田雄久、廣畑和弘、中多泉：イリノテカンによる有害事象と総ビリルビン値の関係。第 51 回日本癌治療学会、京都、2013 年 10 月

槇原克也、東さやか、山田雄久、廣畑和弘、中多泉：ドセタキセルによる発熱性好中球減少症発現予測マーカーの探索。第 51 回日本癌治療学会、京都、2013 年 10 月

矢倉裕輝、坂根貞嗣、櫛田宏幸、吉野宗弘、上平朝子、三田英治、白坂琢磨：Etravirine の肝代謝酵素誘導作用により Telaprevir の血中濃度低下が疑われた 1 例。第 27 回日本エイズ学会学術集会、熊本、2013 年 11 月

矢倉裕輝、吉野宗弘、櫛田宏幸、廣田和之、伊熊素子、小川吉彦、大寺博、矢嶋敬史郎、渡邊大、西田恭治、上平朝子、白坂琢磨：抗 HIV 薬の簡易懸濁法適用に関する検討 第 3 報。第 27 回日本エイズ学会学術集会、熊本、2013 年 11 月

吉野宗宏、矢倉裕輝、櫛田宏幸、廣田和之、伊熊素子、小川吉彦、矢嶋敬史郎、渡邊大、西田恭治、上平朝子、白坂琢磨：当院における Rilpivirine の使用成績。第 27 回日本エイズ学会学術集会、熊本、2013 年 11 月

櫛田宏幸、吉野宗弘、矢倉裕輝、廣田和之、伊熊素子、小川吉彦、大寺博、矢嶋敬史郎、渡邊大、西田恭治、上平朝子、白坂琢磨：当院における Atovaquone の使用状況調査。

第 27 回日本エイズ学会学術集会、熊本、2013 年 11 月

石山薫、森下典子、小野恭子、辻本有希恵、柚本育世、土井敏行、上野智子、三賀森美央、笹山洋子、小森弘未、多和昭雄、是恒之宏、楠岡英雄：臨床研究支援基準の評価。第 67 回国立病院総合医学会、金沢、2013 年 11 月

三賀森美央、小野恭子、笹山洋子、森下典子、石山薫、土井敏行、上野智子、辻本有希恵、柚本育世、小森弘未、是恒之宏、楠岡英雄：適切な原資料作成のための取り組み－CRA、医師、CRC3 者による評価－。第 34 回日本臨床薬理学会学術総会、東京、2013 年 12 月

東さやか、槇原克也、山田雄久、廣畑和弘、中多泉、藤谷和正、山本和義、平尾素宏、辻仲利政：胃癌術後 S-1 補助化学療法における腎機能と用量設定についての検討。日本臨床腫瘍薬学会、幕張、2014 年 3 月

梅原玲緒奈、槇原克也、川端一功、山田雄久、廣畑和弘、中多泉：骨肉腫治療における超高用量シスプラチンの安全性についての検討。日本臨床腫瘍薬学会、幕張、2014 年 3 月

田中景子、槇原克也、梨あゆみ、山田雄久、廣畑和弘、中多泉：がん患者における放射線治療の口腔内粘膜炎に対する立効散の使用経験。日本臨床腫瘍薬学会、幕張、2014 年 3 月

槇原克也、東さやか、山田雄久、廣畑和弘、中多泉：ドセタキセルによる発熱性好中球減少発現予測モノグラムの開発。日本臨床腫瘍薬学会、幕張、2014 年 3 月

藤田晃介、梅原玲緒奈、槇原克也、川端一功、山田雄久、廣畑和弘、中多泉：プロトンポンプ阻害剤の併用による高用量メトトレキサートの血中濃度および有害事象へ。日本臨床腫瘍薬学会、幕張、2014 年 3 月

垣内万依、海家亜希子、槇原克也、梨あゆみ、山田雄久、廣畑和弘、中多泉：進行・再発乳がんにおけるペルツズマブの使用経験～安全性の観点から～。日本臨床腫瘍薬学会、幕張、2014 年 3 月

B-5

服部雄司：救急医療における薬剤師の取り組みと課題。近畿国立病院薬剤師会講演会、大阪、2013 年 10 月

B-8

吉野宗宏：当院における抗 HIV 薬の使用経験 - 最近の話題。第 1 回 沖縄抗 HIV 薬勉強会、那覇、2013 年 4 月

吉野宗宏：大阪医療センターにおける抗 HIV 療法の現状。第 117 回 岡山 HIV 診療ネットワーク、岡山、2013 年 9 月

吉野宗宏：抗 HIV 薬 服薬指導の実際。平成 25 年度 エイズ看護プロジェクト 看護師研修、大阪、2013 年 9 月

吉野宗宏：薬剤師の役割と服薬指導。平成 25 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2013 年 9 月

吉野宗宏：抗 HIV 薬の現状と服薬指導。平成 25 年度 HIV 感染症医師実地研修会（1 か月コース）、大阪、2013 年 10 月

吉野宗宏：抗 HIV 薬 服薬指導の実際。平成 25 年度 エイズ看護プロジェクト 看護師研修、大阪、2013 年 10 月

庄野裕志：抗がん剤と副作用。第 44 回大阪健康セミナー、大阪、2013 年 10 月

吉野宗宏：抗 HIV 薬 服薬指導の実際（応用編）。平成 25 年度 エイズ看護プロジェクト 看護師研修、大阪、2013 年 11 月

吉野宗宏：当院における RPV,STB の使用経験。第 27 回日本エイズ学会学術集会 HIV 感染症薬物療法認定・専門薬剤師講習会、熊本、2013 年 11 月

中蔵伊知郎：大阪医療センターにおける病棟薬剤業務の現状。日高・有田地区病院薬剤師研究会 第 50 回学術研修会、日高郡、2013 年 11 月

服部雄司：大阪医療センターにおける病棟薬剤業務～救命救急センターにおける現状～。日高・有田地区病院薬剤師研究会 第 50 回学術研修会、日高郡、2013 年 11 月

吉野宗宏：HIV 感染症治療における保険薬局の関わり方。第 6 回保険薬局 HIV ミーティング、大阪、2013 年 12 月

笹山洋子：抗がん剤の治験・臨床研究の現状。平成 25 年度チーム医療推進のための研修 2（がん化学療法）、大阪、2014 年 2 月

東さやか：分子標的薬について。法円坂地域医療フォーラム、大阪、2014 年 2 月

服部雄司：救命救急医療におけるコメディカルの役割～救急認定薬剤師の立場から～。南和歌山病院ガラスバッチ研修会、田辺、2014 年 2 月

槇原克也：ドセタキセルによる発熱性好中球減少症（FN）予測因子の解析。第 14 回関西がんとチーム医療研究会、大阪、2014 年 3 月

服部雄司：安定ヨウ素剤内服液調製について。平成 25 年度 京都被ばく医療講習会、福知山、2014 年 3 月